

平成 30 年度事業計画書

公益財団法人竹中育英会

【公 1】 教育・研究への助成事業

1. 国内奨学生に対する助成

(1) 奨学生数と給付金額

- ・平成 30 年 1 月～平成 30 年 3 月

平成 29 年より継続の大学生 121 名、大学院生 43 名（修士 37 名 博士 6 名）、計 164 名

- ・平成 30 年 4 月～平成 30 年 12 月

大学生 118 名（継続 78 名 新規 40 名）、大学院生 52 名（継続 25 名 新規 27 名）、計 170 名

- ・給付月額

大学生、大学院生ともに 80,000 円

(2) 新奨学生の選考

- ・大学新規奨学生 40 名、大学院生（大学奨学生より進学した学生）27 名を採用予定。
- ・指定 20 大学より推薦を受けた新 2 年生各 2 名、及び当会大学奨学生から大学院に進学した学生を対象に、5～6 月、選考委員会による書類選考及び面接選考を行い、採用者を決定する。

2. 海外留学奨学生に対する助成

(1) 奨学生数と給付金額

- ・平成 23～28 年選考の継続奨学生 10 名、平成 29 年選考の新規奨学生 5 名、計 15 名

- ・給付年額

4,500,000 円を上限とする。

(2) 海外留学新奨学生の選考

- ・指定 6 大学（各 2 名以内）、および当会国内奨学生より応募者を募り、選考委員会による書類選考及び面接選考を行い、3～5 名の内定者を決定する。
- ・留学先大学決定後、本決定とする。

3. 奨学金総額

224,050,000 円

4. 奨学生に対する支援

(1) 行事の開催

奨学生相互の親睦を促進するとともに財団関係者・大学関係者・奨学生OBとの交流を目的に、以下の行事を開催する。

- ・卒業奨学生歓送会（大阪・東京にて開催、3月）
- ・新奨学生歓迎会（大阪・東京にて開催、10月）
- ・各大学の集い（大学毎に年2回開催）
- ・大学間の集い（適宜）
- ・海外留学生の集い（米国、時期未定）

(2) 学生寮の設置・運営

- ・所在地 東京都練馬区中村橋2丁目9番4号
- ・施設 鉄筋コンクリート造、延1,632㎡
- ・収容可能数 28名（男性23名、女性5名）
- ・寮費 食費のみ

(3) 奨学生OB組織（竹門会）に対する支援

- ・活動の機会と場を提供する。
- ・奨学生の集いへの参加を要請し、現役奨学生との交流を促進する。

5. 研究者に対する助成

(1) 建築研究助成金の交付

- ①対象者 大学院生で無所得の研究者
- ②募集方法 研究課題の募集を日本建築学会に依頼し、同学会の機関紙「建築雑誌」及びHPを通じて募集する。
- ③選考方法 応募課題を研究助成選定委員会にて審査し、その結果を日本建築学会の学術推進委員会に報告し決定する。
- ④助成件数 10件
- ⑤助成金額 1件500,000円 総額5,000,000円
- ⑥成果報告 応募1年後に、研究論文等の提出を求め、研究成果を確認する。

6. ハンディキャップフィールドに対する助成

(1) 学校法人日本聾話学校

- ・助成対象 聴力・言語教育方法・施設・設備・器具の研究
- ・助成金 年額350,000円

(2) 社会福祉法人無憂園

- ・助成対象 教育設備等への支援
- ・助成金 年額300,000円

【公2】文化及び芸術の振興を目的とする事業の実施及び支援

1. 展示事業の実施

文化・芸術事業選定委員会により審査・選定された下記3テーマの展示事業を行う。

(1) Ray & Charles Eames展 ―暮らしを高めたデザインの軌跡―

① 内容

レイ・イームズ(1907-1978)とチャールズ・イームズ(1912-1988)夫妻は米国のデザイナー、建築家、映像作家であり、積層合板やプラスチック、金属といった素材を用いて、20世紀における工業製品のデザインに大きな影響を与える作品を残した。

二人は「デザインを通してより良い世界を実現する」という共通のビジョンを持ち、生涯にわたりパートナーとして活動を続け、その足跡はデザイン界を揺るがし、影響力は今日に至っています。

彼らが創造した世界を、家具、映像資料、自邸イームズハウスをはじめとする数々の作品を通して紹介するとともに、その源泉、デザインに向かう姿勢、好奇心、人との出会い等を掘り下げたい。

② 展示日程(予定) 6月8日～8月9日 於：ギャラリーエークウッド

③ 予算 12,000,000円

(2) BRIDGE展 ―大野美代子の人と人、街と町を繋ぐデザイン―

① 内容

大野美代子(1939-2016)は美術大学で空間デザインを学び、スイスへ留学して設計事務所です仕事をしたのちに日本でデザイン事務所を立ち上げた。1970年代からプロダクトデザイナーとして日本の暮らしや食生活に適したキッチンテーブルなどを発表し、世界で評価される。その後、公共空間のデザインが求められるようになり、歩道橋のデザインを引き受けたことが橋のデザイナーとしてのきっかけとなり、1977年以降、橋梁関係のデザインがメインとなり、多くの橋梁デザインを手掛けてきた。

大野の「公共空間も生活環境のデザインの一部である」という概念は、橋を訪れる人への丁寧なしつらいと温かい眼差しに表れている。美しい橋を架けて、人と人を繋ぎ、街と町を繋ぎ、新しい交流を生んできた彼女の仕事は、デザインが重要視されてこなかった土木工事の世界に風穴を開け、ヒューマナイズさせることを成し遂げた。

代表作である横浜ベイブリッジの模型展示、橋梁作品写真、スケッチなどを通して、女性デザイナーが土木の分野を切り拓いた道を、若い世代への架け橋として紹介したい。

② 展示日程(予定) 3月9日～4月19日 於：ギャラリーエークウッド

③ 予算 8,800,000円

(3) 南の島の家づくり展 ―東南アジア島嶼部の建築と生活―

① 内 容

世界にはいろいろな木造建築があり、気候や材料などの環境特性ばかりでなく、信仰や対外的な交流など、地域ごとにさまざまな要因が建築に反映されているが、流通経済が発達した現代では、そうした違いがどんどん失われつつある。しかし、インドネシア、マレーシア、フィリピンなどの東南アジア島嶼部は、アニミズムを基層とする特徴的な文化体系をもとに、隣接する中国やインド、そしてイスラムの影響を受け、植民地時代にはヨーロッパからの影響も入った多様な世界となっている。

本展示会では、まだ地域の特性の色濃く残っている東南アジア島嶼部の大小さまざまな島からなる地域に焦点をあて、その生活文化の中で育まれた住宅建築とその技術について、雑木や竹で作られた住居の再現、屋根、壁、継手仕口などの実物模型、大工道具などを自然とのかかわりを含め紹介する。そんな地域で建築を作る技術とはどんなものか、身近な生活圏から得られる材料を熟知し使いこなす知恵など、多様な文化が混在する東南アジアで共有される行動様式について、建築技術の側面から垣間見たい。

② 展示日程（未定） 於：ギャラリーエークウッド

③ 予算 7,980,000 円